

秋 田 学

平成22年度 秋田大学 東京サテライト教養セミナー

「秋田学」を学ぶ

日時／平成22年 5月28日(金) 13:30～16:00

10月29日(金) 13:30～16:00

会場／キャンパス・イノベーションセンター東京 2階 多目的室3
(東京都港区芝浦3-3-6)

入場無料

申込必要

5月28日(金) 13:30～16:00

モノガタリの誕生／〈歴史〉の創造

—秋田の八幡太郎義家伝承—

教育文化学部教授 志立 正知

雅楽と秋田の意外な？関係

—礼楽思想からのアプローチ—

教育文化学部准教授 武内 恵美子

10月29日(金) 13:30～16:00

秋田県の高山植生

—過去、現在、未来—

教育文化学部准教授 成田 憲二

秋田における地球熱利用促進の取り組み

工学資源学研究科准教授 山口 伸次

申し込み・問い合わせ先

秋田大学東京サテライトオフィス

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

キャンパス・イノベーションセンター東京6階 604号

TEL/FAX: 03-5440-9104

E-mail: satellite@jimu.akita-u.ac.jp

秋田大学社会貢献推進室

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3162

E-mail: shakoken@jimu.akita-u.ac.jp

主催 秋田大学

後援 秋田県、首都圏秋田県人会連合会、
在京秋田県高等学校同窓会連合会、
秋田大学全学同窓会

ブナの森、ハタハタ、きりたんぽ。秋田には、つつい自慢したくなる良いものがたくさんあります。でも、まだ気がつかれていない良いものが、もっとあるはず。 「秋田学」は、隠された秋田の文化的価値を世界に発信し、秋田の活性化につなげようと構想されました。 今回のセミナーでは、4つのテーマで秋田の魅力を紹介します。

5月28日(金)

モノガタリの誕生／〈歴史〉の創造 —秋田の八幡太郎義家伝承—

教育文化学部教授 志立 正知

八幡太郎と称された源義家は、清和源氏の祖と仰がれた武将で、前九年の役・後三年の役で、その武名を轟かせました。後三年の役の主戦場となったのは沼柵(旧雄物川町沼館)と金沢城(横手市金沢)ですから、秋田に義家伝承が残っていても当然なのかもしれません。ところが、奇妙なことに秋田に多く残っているのは、後三年の清原氏ではなく、前九年の安倍氏を討ったという伝承です。

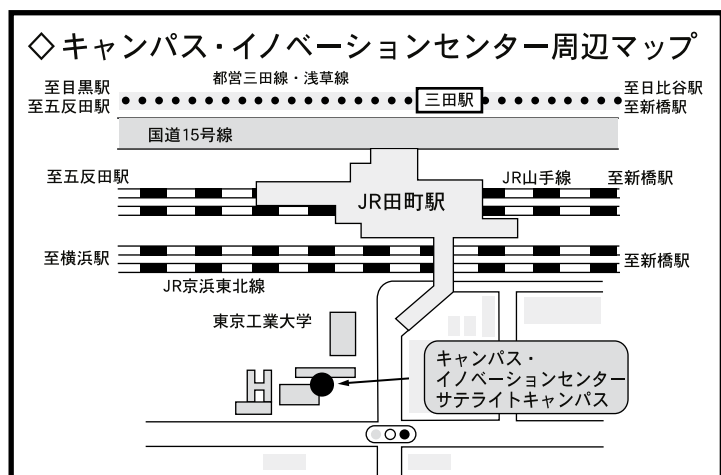
秋田に義家伝承が記録上に登場するのは江戸時代、秋田が佐竹氏の領国となって以降のことです。そしてその背後には、義家にまでさかのぼって領国・領民との紐帯(じゅうたい)を創り出そうとする佐竹氏の戦略が潜んでいたらしい。こうした事実を探りながら、モノガタリ(伝承)が生み出されるメカニズムについて考えてみたいと思います。

雅楽と秋田の意外な？関係 —礼楽思想からのアプローチ—

教育文化学部准教授 武内 恵美子

雅楽は奈良・平安時代から続く代表的な日本の伝統芸能の一種であり、天皇や皇室、公家の音楽文化であると説明されます。そこから、雅楽には「典雅」「高貴」なイメージが広がり、一般的にはあまりなじみのない音楽であるかのように思われることもしばしばあります。したがって、秋田と雅楽の関係というところと意外な感じがするかもしれません。佐竹の殿様が愛好していた？いえいえ、もっと一般的なレベルで雅楽の需要がありました。まずは雅楽という音楽文化について、楽器の実物も見ながらその多様性を知っていただき、江戸時代に発展した雅楽の思想的側面を含めながら、雅楽と秋田の関係について考えてみたいと思います。

会場のご案内



キャンパス・イノベーションセンター東京
東京都港区芝浦3-3-6

連絡先：秋田大学東京サテライトオフィス

TEL/FAX 03-5440-9104

E-mail: satellite@jimu.akita-u.ac.jp

アクセス

JR山手線田町駅芝浦口から徒歩1分です。
都営地下鉄三田駅から徒歩5分、
A4出口からJR田町駅芝浦口へ向かってください。

参加申込書

●参加ご希望の方は、下記申込書をFAXするか、E-mailまたは電話でお申し込みください。

TEL/FAX 03-5440-9104 ご記入いただいた個人情報は、秋田大学主催セミナー等のご案内以外には使用いたしません。

お名前	企業・団体	ご連絡先電話番号	参加希望日
			<input type="checkbox"/> 5/28(金)
			<input type="checkbox"/> 10/29(金)

10月29日(金)

秋田県の高山植生 —過去、現在、未来—

教育文化学部准教授 成田 憲二

世界自然遺産で有名な白神山地をはじめ、秋田にはたくさんの自然が残っています。鳥海山や秋田駒ヶ岳、八幡平といった秋田の高山地帯は比較的手付かずのままの生態系が残っており、普段の生活ではあまり見ることのできないきれいな花々が数多く見られます。一方、現在進行していると考えられている気候変動によってこれらの植生が変化してしまうとの予測もあります。例えば、今の気候変動が続けば白神山地ではブナが生息できなくなるとの研究結果もあります。

本講演では、世界の様々な植生との比較を交えながら秋田の様々な場所にある高山植生を紹介するとともに、秋田の植生の氷河期から現在までの変遷と将来の予測を簡単に説明していきます。

秋田における地球熱利用促進の 取り組み

工学資源学研究科准教授 山口 伸次

地球熱とは、地球内部の土、地層、岩体に含まれる利用可能な熱エネルギーの総称で、地熱、中小地熱、温泉水熱、地下水熱、地中熱などを含みます。秋田には、これらの熱エネルギーが豊富に存在していますが、必ずしも有効活用されている状況ではありません。地球温暖化防止のための低炭素社会構築に向けて、この再生可能な自然エネルギーの有効活用を図るため、「秋田県地球熱利用・産業振興協議会」が設立されるとともに、湯沢市、鹿角市、男鹿市などでは地熱・温泉水熱の利用可能性調査が始まろうとしています。

本講演では、同協議会の活動内容を紹介するとともに、地球熱利用の一形態である、「地中熱利用ヒートポンプシステム」についても説明します。